

特別陳列

北陸ゆかりの画聖たち —長谷川等伯・久蔵・左近、久隅守景—



(左)重文「鬼子母神十羅刹女像」 (右)重文「釈迦多宝如来像」
ともに長谷川等伯(信春)筆 高岡大法寺蔵
「特別陳列 北陸ゆかりの画聖たち」より

近代の美術 —日本画を中心に—

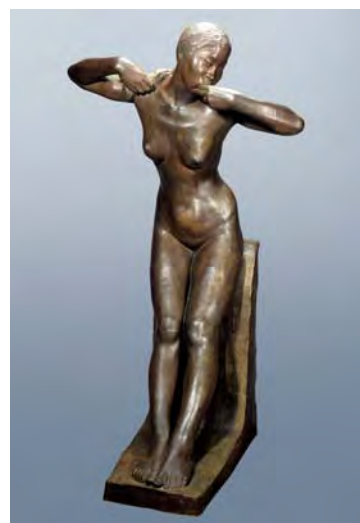
人体彫刻

石川工芸の昭和50年代
—石川県工芸作家選抜美術展出品作にみる—

系譜で見る石川の絵画

新収蔵品展 —日本画・油彩画—

- 7月の企画展示室
- 7月の行事予定
- 講演会記録「革新の視座」
- 小学生親子 夏休み制作体験参加者募集
- 所蔵品紹介



「草笛」中島東洋
「人体彫刻」より

北陸ゆかりの画聖たち

—長谷川等伯・久蔵・左近、久隅守景—

6月19日(木)～7月27日(日) 会期中無休

学芸員の眼

「今年は長谷川等伯のどの作品が展示されますか？」毎年三月一日に新年度の展覧会スケジュールが発表されると、全国からこのようなお問い合わせをいただきます。当館では、二〇一〇年の没後四百年の大回顧展を機に、長谷川等伯に対する全国的な関心が高まったのを受けて、翌年から第2展示室の特集、特別陳列で等伯の作品を毎年紹介してきました。等伯の作品を所蔵していない当館ですら、毎回ご所蔵者のご高配を賜りながらの開催ですが、わずかな展示点数にもかかわらず全国にリピーターを得ることができたことを嬉しく思います。新幹線金沢開業を来年の三月に控え、小規模でも独自のこだわりを持った企画を展開・継続してゆくことが顧客開拓につながることを改めて痛感しています。

北陸地方は、古代から九州とともに大陸との交流拠点として独自の文化が発達しました。そして京都や江戸との微妙な距離感、室町時代には戦乱や政争からの避難所として洗練された文化を生み、江戸時代には特に外様大名の筆頭であった加賀藩に、朝廷と幕府との権力構造のなかで文化によって主体性を保持する政策を促しました。

今回の特別陳列では、長谷川等伯と久蔵、左近の等伯父子の作品と、狩野探幽門下の逸材として技量が高く評価されながら後年探幽の門を離れた久隅守景の作品を展示します。展示される作品が描かれた背景を考えますと、先述した北陸地方の特質が深く影響を与えていることが確認されます。

今回、高岡大法寺と高岡市美術館のご高配により公開が実現した長谷川等伯(信春)筆の重要文化財「釈迦多宝如来像」と同「鬼子母神十羅刹女像」は、いずれも等伯が七尾を拠点に信春と号し

ていた永祿七年(一五六四)、二十六歳の作です。細に画面を観察すると、この年既に等伯は絵仏師として熟達しており、若年時から様々な仏画の学習と制作にあたる環境にあったことがわかります。そして、伝長谷川久蔵筆とされている「祇園会図」(石川県指定文化財)の人物描写には同じような血脈が感じられるのも興味深いところです。また大乘寺に伝来した長谷川左近筆「十六羅漢図」(県文)も、等伯一門の活動状況を知る貴重な作例といえます。

そして今回は久隅守景の「四季耕作図」を、日本風俗(重文)と中国風俗(県文)の二点同時に展示します。守景が加賀の地で四季耕作図を意欲的に描いた背景には、加賀藩が推進した農政改革を称揚する目的があったと考えられます。



重文「四季耕作図」久隅守景筆(部分)

第4展示室

人体彫刻

6月19日(木)～7月27日(日) 会期中無休

前田育徳会尊經閣文庫分館

近代の美術

—日本画を中心に—

6月19日(木)～7月27日(日) 会期中無休

インターネットで「前田育徳会」を検索すると、本館がヒットすることもあってか、前田育徳会に関するご質問をよく頂戴します。中には東京からのお電話もあって、「東京の駒場にありません」とお答えすると、驚かれることも少なくありません。前田育徳会(非公開)は東京の駒場公園の隣にあり、駒場公園の中にある前田家が昭和初期に暮らした洋館と和館は、現在も一般の見学が可能となっています。

この和館にかつてあったのが、今回展示する橋本雅邦の襖絵です。東洋画の伝統的画題である「山水」を、四季の移ろいとあわせて描いた本襖絵は、元々前田家が駒場に移る以前に暮らした本郷邸建設(明治三十八年)に際し、制作されたものでした。

本郷は、前田家が元和二年(一六一六)に拝領したと伝える由緒ある場所で、藩政期は大名屋敷として使用されてきました。明治に入り、焼失、政府への返納など、流動的な時期を経て、明治三十五年によく本郷邸の新築が決まります。本郷邸も「西洋館」と「日本館」から成り、雅邦の襖絵は、日本館の座敷に用いられたのです。明治四十三年には、明治天皇の前田邸行幸が行われ、座敷は「蔵品陳列所」として使用されています。

大正末に本郷邸の解放が決定し、新たに建てられたのが、現在駒場にある洋館と和館です。本特集では、本郷邸、駒場邸と使われ続けた本襖絵をはじめ、山元春挙、結城素明などの日本画を紹介します。

今回の展示は「人体」をモチーフにした、具象的・抽象的な表現にいたる作品を中心に展示するものです。

人体を表した彫刻の歴史はたいへん古くからみえるものです。ヒトが自分たち人間を表現するという行為は、根源的な問いであり、また永遠のテーマとも言えるものでしょう。当館の彫刻コレクションのテーマにおいて多くを占めるものがこの人間を対象とした作品群でありますが、これは多くの美術館にも共通するものと思われず、さて人間表現を含めた人体彫刻の魅力とテーマとしては、生命感の表現として女性美・官能美、

男性の筋肉美などをはじめとする人体の美は元より、一つのフォルムとしての美が見えるほか、人間表現の諸相として、感情や深層心理の表現、また生活の中での一つのシーンを捉えたものから人体を借りての季節感の表現等々の諸相がみえるものとなっています。

展示では、人体彫刻でよく用いられる彫刻素材で塑造の代表的素材である「ブロンズ」と、彫刻素材の代表である「木」を中心に、石膏・FRPなど多彩な素材による人体表現の魅力もお楽しみいただくものです。



「雲に漂う」吉田三郎

「四季山水図襖(夏景)」橋本雅邦

第6展示室

系譜で見る石川の絵画

6月19日(木)～7月27日(日) 会期中無休

第6展示室では明治以降の洋画、日本画を系譜、系統という観点から紹介します。

洋画では東京美術学校で洋画を学び、大正期に文展・帝展で活躍した遠田運雄、伊東哲らをまず一つの系統とし、次いでその下の世代になる高光一也と光風会系、そして宮本三郎と二紀会系の作家をご覧ください。

ここでは最初の系統から伊東哲を紹介しましょう。明治三十年に金沢第一中学(現泉丘高校)に美術教師として赴任した佐々木三六が洋画を普及し、彼の赴任期に遠田、伊東らは同中学から東京美術学校の西洋画科に進みます。今、NHKの朝ドラで九州の鉱山王に嫁いだ女性が出ています。後の歌人柳原白蓮ですが、伊東は彼女をモデルに「沈思の

歌星」を描き帝展に入選しました。しかしそのことが売名行為と騒がれ画壇を去ることとなります。そして、従兄で台湾に渡りダム記録画を描くのでした。石川洋画といえは、高光・宮本が著名ですがその先達にもユニークな画家は多くいるのです。

日本画では日本画家が生き生きと活躍していた明治期から、主に金沢美大を卒業し画壇で活躍する現代作家までを、師系の観点からご覧いただきます。日本画が誕生した明治初期、依然として各流派が存在し、その筆法や画風にも確かな違いが認められるものでした。公立の美術学校の設立により、各流派の垣根が低くなった時代を通り抜け、現代に至る石川日本画の姿をご覧ください。



「農夫の妻」伊東哲

第3展示室

新収集品展

—日本画・油彩画—

6月19日(木)～7月27日(日) 会期中無休

第3展示室では、昨年度収集した近現代絵画を紹介します。

洋画部門では昨年度の新収集品に新寄託品を合わせて展示します。既に開光市の作品は六点收藏していますが、新たに超巨大な横九メートルの「くも」と八メートルの「舟」、共に四枚組の作品が二点加わりました。「くも」は異なるサイズのキャンバスを組み合わせた異色作で、開独特の緻密な絵肌を持つ奇怪な生物を描く作品です。展示に工夫がいりますが、上手く構成できれば、その存在感は圧倒的なものがあります。

長谷川清作「初秋」は女性が二人室内にたたずむ穏やかな作品です。中間調による柔らかな色彩の対比が、光の陰影と相まって美しく映えています。

寄託品では高光一也作の「勤労出勤」を紹介し、昭和十八年の同名作品より大型で同じ女性達を若干替えて描いた姉妹作で、高光氏の没後公開されるのは初めてとなります。

日本画では昨年度七点の収蔵がありました。中でも興味深いのが川端玉章の画卷ではないでしょうか。玉章は明治期の円山派を代表する付け立ての名手で、美校の学生たちに指南するために描いた『付け立て画手本』は有名です。今回収蔵された写真画卷は身近な生物を生き生きと描き出し、『付け立て画手本』を彷彿とさせるものです。その他、古澤洋子氏の三面で構成される大作「氷食」。中町力氏の日展会員賞受賞作「THE BRONX」。さらに京都画壇で活躍した山本知克氏の代表作四点を展示します。



「写真画卷」川端玉章
第6展示室「系譜で見る石川の絵画」に陳列

第8・9展示室

2014

春の北陸二紀展

6月19日(木)～23日(月) 会期中無休

二紀会は「類型化を排する。具象・非具象を論じない。創造的な個性の発現を尊重する。情実を排し新人を抜擢し、積極的に世に送る」の主張を掲げて昭和二十二年以来活動を続けています。

春の北陸二紀展は北陸支部会員が、第六十八回二紀展に向けて制作した作品を展示いたします。

世評を問い、あわせて立見榮男二紀会常務理事をはじめ委員の批評と指導を受けて作品の質の向上を図ります。この機会に是非ご高覧賜りますようご案内申し上げます。

◆入場無料

◆後援 北國新聞社、テレビ金沢、北陸放送

◆連絡先 金沢市泉野出町二一六一九 六反田英一

TEL 〇七六一二四三二〇八八二

第5展示室

石川工芸の昭和50年代

—石川県工芸作家選抜美術展 出品作にみる—

6月19日(木)～7月27日(日) 会期中無休

当館の前身である旧・石川県美術館において、昭和五十一年から五十八年まで毎年「石川県工芸作家選抜美術展」が開催されました。内容は、その趣旨にあるとおり、優れた伝統技術を生かしながら、新しい創作活動に当っておられる石川県の代表的工芸作家の作品を一堂に展覧し、石川県の工芸の健全な発達に寄与することを目的にしたもので、陶芸・漆芸・染織・金工・木竹工・人形・その他の工芸のあらゆるジャンルを対象に、毎回ほぼ百点前後の作品が展覧されました。

この八回の展覧会が開催された昭和五十年代は、新しい美術館建設の機運が次第に高まっ

いた時期であり、五十一年十月には、石川県美術文化協会から「石川近代美術館建設促進に関する要望書」が県知事に提出され、五十八年の新美術館開館に向けての動きが活発化していきます。それにともない、工芸作家選抜美術展において行われた優秀作品の買い上げは、新館開館に向けてのコレクション充実の一翼を担ったということができましよう。

本特集では、当時の選抜展において収集された作品を一堂に展示し、昭和五十年代の石川の工芸を概観しようとするものです。

石川県水墨画協会は、平成元年度発足、同二年に第一回公募展を開催し今日に至っております。公募展は石川県内の水墨画会諸会派及び一般個人を統合する当協会が行う展示会です。これは、過去の公募展の実績に照らし承認された会員の研鑽の場であると同時に、広く県内より一般公募し、厳正な審査の上入選作を展示し、水墨画の普及発展に寄与することとしております。従って各会派主宰の作品を始め、会員並びに一般公募の意欲的な表現による、楽しみな協会展ならではの作品をご覧いただけると思っております。

今年第二十五回記念展で県立美術館展示終了後、七尾・加賀市それぞれの美術館への巡回展を企画しております。多くの方々のご来場をお待ちしております。

◆入場無料

◆連絡先 能美市高坂町八九九の一一一五

事務局長 佐藤剛

TEL 〇七六一一五五一一五二九九

第7～9展示室

第25回記念 石川県 水墨画協会 公募展

6月26日(木)～30日(月) 会期中無休 (17時で閉室)



友禅訪問着「おとすれ」 毎田仁郎
昭和51年 第1回展



色絵牡丹文大皿 二代松本佐吉
昭和56年 第6回展

第100回記念

光風会展金沢展

7月16日(水)～22日(火) 会期中無休

光風会は今年で一〇〇回展を迎えました。金沢展は昨年が続いての開催です。本展に加えて記念展として「洋画家たちの青春―白馬会から光風会へ」が名古屋松阪屋美術館で行われています。作品を鑑賞する視点として一つは作品を感じるままに観る。もう一つは美術史的なものも含めて比較しながら観ることです。

出品作家を紹介すると、黒田清輝、藤島武二、鬼頭鍋三郎、田村一男、小磯良平など、そして二科会、新制作派協会、日洋会は光風会から別れてできた団体ということからもわかるように、幅の広い作家で構成され、継続されています。現在は、理事長の寺坂公雄、常任理事の藤森兼明を中心として活動しています。ぜひ、二つの視点でご鑑賞ください。

◆観覧料／一般七〇〇円・大学生三〇〇円(予定)

◆主 催／一般社団法人 光風会、北國新聞社

◆連絡先／石川県能美市東任田町イ一九一六四 西房浩二

TEL 〇七六一―五七一四七四二

第5回

石川県日本画会展

7月9日(水)～13日(日) 会期中無休

「日本画を志すものが、これまでの既存的概念や会派にとらわれることなく、自由で新しい発想によりそれぞれの日本画制作をすることを目的とし、会員相互の協力によってその研究・模索と石川県内での発表の機会を設け、自己の研鑽に努め、石川県の美術文化の発展に寄与する。」とし、新たな日本画の会をスタートして今年で五年目になりました。

二十代の若手からベテランまで年齢層は幅広く、モチーフも風景や静物、人物・動物や植物、具象や抽象など多岐にわたり、その視点や表現方法は個性豊かです。

ぜひ、この機会に石川県内の日本画家の意欲作をご覧ください。

◆入場無料

◆連絡先／輪島市鶴入町二一三七

石川県日本画会事務局長 宮下 和司

七月の行事予定

| ■土曜講座 | | 午後1時30分 美術館講義室 聴講無料 | |
|--------|-------------------|---------------------|--|
| 5日(土) | 石川の銅像 | 北澤 寛 | |
| 12日(土) | 石川の油絵―明治～平成― | 二木伸一郎 | |
| 19日(土) | 美術に見る色(赤)(4) | 西田 孝司 | |
| 26日(土) | 尊経閣文庫の名品―国宝・類聚国史― | 高嶋 清栄 | |

加賀友禅技術保存会は現在、十名の友禅作家が会員に認定されており、加賀友禅の正統な技術保存と後継者育成のため、石川県の無形文化財の指定を受けています。その主旨を推進するため、毎年開催しているのがこの展覧会です。

第三十二回展より公募制を採用したことで、広く一般の方も出品できるようになりました。

加賀友禅における新しい感性と創造的作品の数々をご覧ください。

※毎日午後一時三〇分より作品解説があります。

◆入場料／四〇〇円(三〇〇円)高校生以下無料
※()内は二十名以上の団体料金

◆主 催／加賀友禅技術保存会

◆連絡先／金沢市小將町八一八
加賀友禅(伝統産業会館内)
伝統加賀友禅工芸展事務局
TEL 〇七六一―二二四―五五一

第36回

伝統加賀友禅工芸展

7月5日(土)～10日(木) 会期中無休

新紀元 革新の視座

— 加賀谷武、木下晋、久世建二、庄田雷寛、蓮田修吾郎の創造 —

本多の森公園から美術館までの加賀谷武のロープインストレーションは、次に館内エントランスから一階ロビーの上空を伸びていきます。その下には久世建二の九・一一テロそして三・一一震災と津波の災禍に遭われた人々への哀悼の思いを込めたタワーと二十一体の人型が佇みましました。これまで当館で見ることもなかった世界でした。

展示室ではまず最初に木下晋の鉛筆によるモノクロームの世界に驚嘆されたのではないのでしょうか。百三歳を生きた盲目の「瞽女唄」選択無形文化財保持者小林ハルさんを描いた諸作、そして三・一一の災禍を目のあたりにし、鎮魂の思いで描いた「祈りの塔」、木下渾身の作品群です。後者の合わせた手の節々が人の顔に見えると語られた人がいました。

次の展示室は一転してカラフルで明るい庄田雷寛のひょうげた世界です。ホツと息をついて、にやりとしつつ順路を追って見ていくと、近作は川や波を描いた作品が並びます。三・一一の津波の災禍が、作者の心に深く刻まれているのです。

三室目は、若き日日本画家を目指し、金属造形で芸術院会員となった故蓮田修吾郎の世界を、初期作品、レリーフ、方壺と原型、ミニチュメント、この四部構成でご覧いただきました。スタイリッシュな壺に魅了されると感嘆の声があがっていました。

そして、ロビーのロープとタワー・人型の共演を見ながら2階展示室へ。ここでは第3と第4展示室で久世と加賀谷の制作を、初期から近作までご覧いただきました。

『革新』と『メッセージ』をテーマとする五人の個展の集合体、これが革新の視座展でした。しかし、硬派で重く盛り沢山な内容は、集客という点において大変厳しい結果となってしまいました。再考すべき点を多々抱くこととなった壮大な観覧会でした。

小学生親子対象 夏休み制作体験

◆1・2・3年対象「木の人形をつくる」 8月1日(金) 10時30分～14時30分
定員／十五組(計三〇名) 参加費／親子二名で八〇〇円

木切れを組み合わせて座る形の人形を作ります。木工用ボンドでの制作なので積み木感覚で楽しく制作できます。

◆4・5・6年対象「型染めでおしゃれTシャツ」 8月6日(水) 10時30分～14時30分
定員／十五組(計三〇名) 参加費／親子二名で二、〇〇〇円(Tシャツ代込)

身近なものを簡単におしゃれにできるステンシル感覚で型染めに挑戦。カッターなしで、しかも連続模様もできる方法であなたのTシャツもおしゃれに変身。

◆全学年対象「もみ紙でアート」 8月4日(月) 13時30分～16時
定員／二〇組 参加費／一名二〇〇円

日本画や掛け軸を飾る表具など、古くから日本に伝承されてきた技法「もみ紙」。紙が次第に布のような感触になっていくもみ紙づくりと、そのもみ紙を使ってもみ紙アートにも挑戦。

※この講座は一組三名までお申し込みできます。

○体験講座お申し込み方法(往復はがき)

【往信の宛名画】

〒九二〇一〇九六三 金沢市出羽町二一一 石川県立美術館 普及課宛

【往診欄の文画】

・参加希望の講座名
・親子の氏名(もみ紙でアート)は、参加者全員のお名前
・学年・住所、電話番号

【返信の宛名画】

住所、お名前

【返信の文画】

何も書かないでください

【応募締め切り】7月18日(金)必着

*定員を上回った場合は抽選となります。結果は返信はがきでお知らせいたします。

*講座対象学年以外のご兄弟(生後6ヶ月以上)のための無料の託児サービスがあります。ご希望の方は、申し込みはがきに対象児の年齢をご記入下さい。(要予約)

高田 博厚 たかた・ひろあつ 明治33年～昭和62年(1900～1987)



トルソは、人体彫刻の内、首や手足などが取れてしまっている胴体を中心とする作品を指し、近代以前では出土した断片的な古代彫刻や「未完成作品」を指す言葉でした。十九世紀になって近代彫刻の父と称されるロダンがトルソをひとつの完成された魅力ある作品として制作して以降、広く受け入れられるようになります。

本作品は、腕・脚と頸部以上の頭部がなく簡素なフォルムの作品ですが、体の動きが明瞭に感じられ、女性の美しい体のラインとともに官能美が発揮された作品です。豊かさを感じさせる正面写真の雰囲気に対し、側面に廻って見ると意外な程にほっそりとした上体から、豊かな腰部へと繋

がっついて、ダイナミックな量塊の動きを示しています。

作者の高田博厚(明治三十三年～昭和六十二年/一九〇〇～一九八七)は七尾市出身。福井に移住。大正七年(一九一八)に上京し東京外国語大学に進学しますが中退。彫刻家高村光太郎の影響を受けて彫刻家を目指し、独学で研鑽を積みみます。昭和六年、フランスに留学し、同三十二年に帰国するまでの間、彼の地で多くの文化人と交流し多彩な活動を展開しました。作品はマイヨールを思わせる量感溢れる女性像が特徴で、ほかにも優れた肖像作品を数多く制作しました。

次回の展覧会

会期:7月31日(木)～8月31日(日)

| | | | | |
|------------------------------|-------|--|--------------------------|---|
| 前田育徳会 尊経閣文庫分館 | | 第2展示室 | | ご利用案内 コレクション展観覧料 一般 360円(290円) 大学生 290円(230円) 高校生以下 無料 ※()内は団体料金 毎月第1月曜日はコレクション展示室無料の日(7月は7日) 今月の開館時間 午前9:30～午後6:00 カフェ営業時間 午前10:00～午後7:00 年中無休 7月の休館日 28日(月)～30日(水) |
| 尊経閣文庫名品展 — 国宝「類聚国史」を中心に — | | 琳派名作選 | | |
| 第3展示室 | 第4展示室 | 第5展示室 | 第6展示室 | |
| 館蔵優品選 — 絵画・彫刻 — | | Motion&Still 塑造・桐塑人形之美 — 紺谷力・井口十糸・山本榮子 — | 夏休み親子で楽しむ美術館 アートdeかるた | |

Meiカード 広告

ポイントプラスデー

毎週水曜日は
エムザでお買物

Meiカード
通常ポイント + 3%
ポイント
プラス

MEITETSU
MIZA
めいてつ・エムザ

金沢むさし TEL(076)260-1111(代)
www.meitetsumza.com
10時～19時30分(地階レストラン街・書籍は21時まで)

石川県立美術館だより
第369号(毎月発行)
2014年7月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/